

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992500124		
法人名	社会福祉法人 清幸会		
事業所名	認知症高齢者グループホームりんどう荘 朝日		
所在地	栃木県那須郡那須町湯本新林206		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	平成31年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成30年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念は「もう一つの家族として、その人らしさを大切に安全・安心・快適、そして笑顔があふれる生活を提供します。」としています。閑静な別荘地にあり、自然の恵み豊かで季節の移ろいを日々感じる事ができます。利用者様は、それぞれ自分のペースで生活されおります。自施設は開所4年を迎え地域に認められつつあるところ。地域の方との交流として今年度は自治会の班長として活動しています。また、家族交流として敬老会やクリスマスにご家族に参加をいただき、色々とお話をすることが出来、ご家族の思いを深く理解できるようになりました。利用者様には居心地の良い環境、職員には働きやすい職場を目指しています。共に生きる「もうひとつの家族」として、泣いたり、笑ったりしながら、当たり前前の生活が出来事を大切にしている施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

那須町東部の別荘や保養所が散在する自然豊かで閑静な所に在り、周囲の美しい景観や野鳥の訪れ等自然の恵みを味わいながらゆったりと過ごせる事業所である。建物は以前に保養所として使われていたもので、堅牢で居室等も広く各設備も良く整備されている。玄関には和服の暖簾を飾り、広く明るいスペースにソファを置き、利用者の寛ぎの場となるよう配慮している。母体である法人は特別養護老人ホームやデイサービスセンター・小規模多機能施設・グループホーム等を運営しており、研修や業務について連携を図っている。職員は、音楽を通じて利用者とのコミュニケーションを図ったり、利用者を楽しんでもらえるよう努めている。理念を良く理解し、利用者を尊重し、安全安心に、笑顔があふれる支援を大切にしている。冬期は積雪の多い地域ではあるが、時機を捉え効率的な外出支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各フロア、玄関、事務所に掲示している。また、毎朝朝礼での唱和を行っている。さらにユニット会議で理念の内容を確認している。	理念は事業所内の目に留まりやすい壁面等に掲示してある。朝礼で唱和したり、会議や申し送り時に理念の内容を理解することに努め、職員間で共有の上、利用者の安全安心と笑顔あふれる支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に運営推進会議に参加していただき、交流に努めています。自治会の班長となり地域の一員としての役割を果たしている。回覧板を利用者と一緒に届けるなど交流をしている。	近隣を散歩したり、回覧板を届けるなどして日常的にコミュニケーションを図っている。管理者が自治会の班長を務め、地域の一員として役割を果たしている。町内のイベント館に出向き、職員による音楽活動を楽しむなど、地域の人達との交流の機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の方の様子や支援方法などを説明し、理解促進を図っている。現在地区の班長となっており、班の集まりなどで介護についての相談や助言など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで開催し、実績や毎月の行事などの活動内容を報告しています。会議で出た意見や提案などについては真摯に受け止め、サービス向上につながるようにしている。	家族代表・自治会長・民生委員・町役場担当者・地域包括支援センター担当者・地区社協の参加により2か月に1回開催している。日頃の活動支援内容や行事についての報告を行い、参加者から出された意見や提案等をその後のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日ごろから運営に関する不明な点や困難ケースなど、町や地域包括支援センターに相談し助言を頂いたりと関係性を強化している。	町担当者には事業所の状況を報告したり、困難事例や事務手続き等での相談には指導や助言を受けている。身体拘束適正についての提案があり、対応の仕方を聴き、取り組みに努めるなど、より良い関係作りをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の「宣言」を掲示し、管理者、リーダーがバックアップすると明言し、身体拘束ゼロを継続しています。なぜ身体拘束の弊害等を会議等で職員への周知徹底をしています。玄関の施錠は夜間のみとしております。	マニュアルを整備し、会議や研修等での学習により職員は良く理解している。「身体拘束防止宣言表」を掲示し、身体拘束防止について周知を図っているほか、身体拘束適正化委員会を立ち上げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分たちは虐待の早期発見、通報の義務があることを掲示並びに会議や研修を行っている。また自分たちもストレスを溜めないことの大切さも話し合っている。		

認知症高齢者グループホームりんどう荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様に身内が居ない方がおり、これからの生活を考え、成年後見人制度について学び結びついている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を設け、ご理解いただけるまで説明を行っております。契約後も不明な点が出てきたときには気兼ねなく質問できるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が利用者や面会に来た家族様に直接話しかけることにより、得た情報を職員で共有し改善等につなげるようにしている。また、不在の場合は他職員に申し送りをしておき家族とお話をするようにしている。	家族の面会時に利用者の状況を伝え、意見や要望を聞いている。利用者からは日頃の何気ない会話から食事についての要望等、身近なことを把握するよう努めている。意見や要望は日常の支援や介護計画作成等に反映させている。	県外や遠方にいる家族から意見や要望を得るためにも、広報紙だけでなく積極的に利用者の細部の様子を知らせる工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、各種会議のほか、普段から現場に向き、職員が声をかけられる機会を多くとっている。	日常の支援の中で管理者は職員からの提案を聞いている。毎月各種会議を開催し、職員から利用者の関わり方についての意見が多く出ている。年2回管理者が面談を実施し、異動や要望・提案についての意見を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、管理者は職員個々のそれらを把握し代表者に伝えて反映されるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は特に人材育成に力を入れており研修は年間計画を立てて受講させている。また、事業所に赴き、管理者や職員個々のケアの実際と力量を把握している。法人の介護マニュアルがあり、それに基づき統一したケアができるようトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、那須町の研修や説明会がある事を各事業所へ発信し、参加を促している。また、地区社協や役場などへの挨拶まわりなど、交流を深め情報交換など行っている。		

認知症高齢者グループホームりんどう荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前に施設見学や希望者には体験利用をして頂き不安を軽減してもらうようにしている。また、利用者様や家族様からできるだけ多くの情報を得ておき現場職員には必要に応じて対応するように指示している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入前に家族様の話をじっくり聞きとるようにしている。家族様が話しやすいように世間話を交え和んだ雰囲気作りをしている。困りごとや不安、要望について分かりやすく相談に応じ約束は必ず守り信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様が今、何を必要としているか察し、話し合い検討し、幅広い視点から利用者様と家族様が求めているサービス提供への対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護に加え、生活支援が重要な業務である事を意識している。利用者様ができる家事はお願いして急がせることなく、見守りを行い職員も利用者から学ぶ事が多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域密着型としていつでも家族様が気軽に来荘できる環境づくりに努めている。随時家族と連絡を取り合い相談して利用者様と家族様の意見のバランスをとりながら物事を進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた美容室へはできる限り家族様と一緒に行く、家族様以外の友人等の面会も積極的に受け入れるなど、これまでの生活が大きく変わらないように配慮している。	家族や友人の面会時には居室でお茶を飲みながら歓談できるよう配慮している。通い慣れた美容院や地元の温泉神社への外出、行き慣れたスーパーでの買い物等、希望に応じ、家族の協力を得ながら関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間には体調不良者以外は、皆様自然に食堂に来られる。誰かが揃わないと皆で心配するなど関係性ができている。		

認知症高齢者グループホームりんどう荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関わりを大切にしながら必要に応じて利用者様、家族様の今後について相談や支援を行えるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの日常の会話や普段の様子、また家族様とのやりとりの中から利用者様主体の生活が送れるよう心がけている。	職員は日頃から積極的にコミュニケーションを図り、会話や表情の中から利用者の思いや意向を把握するよう努めている。入浴時での何気ない会話や家族からの情報も大切に、作品作りや食べたい物等、身近な希望にも沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族様に生活歴等を記入いただいている。また利用者様、家族様から生活歴の聞き取りを行ったり、これまで関わってきた介護保険事業所から情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の体調確認と利用者様の意向により、その日の過ごし方を職員間で相談し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認しながら、必要があれば医療との連携をとりながら担当者間で話し合い、介護計画を作成している。	主治医との連携のもと、本人や家族の意向と職員の意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。3ヵ月に1回のモニタリングにより援助目標の達成度を確認し、状況の変化に応じ随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護日誌や業務日誌、連絡ノートに日々の様子や気づき等を記入し、出勤時に確認することで情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問美容室の導入、買い物支援など柔軟な対応に努めている。		

認知症高齢者グループホームりんどう荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある食堂から出前を取ったり近くにある牧場などに外出など行い地域の施設など利用して楽しく過ごして頂くよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は利用者様や家族様の希望に添いながら、関係性を重視し、なるべく長年診てもらっていたかかりつけ医の診察を受けられるよう配慮している。	かかりつけ医の受診に配慮しているが、月1回の往診がある協力医の受診を希望する利用者が多い。服薬や受診状況等の情報を家族と共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化がみられた時にはすぐに看護師に報告し、対応法や受診など適切に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の方が入院された際には、こまめに面会に行き状態を把握するとともに、医療相談員や家族様と連絡を取り合い早期に退院できるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については、今年度5月より体制を整え、入所時にご家族様に事業所が出来る事、出来ない事を説明している。看取りを希望された際は、医療機関と連携し看取り介護を行っていく。	利用契約時に本人・家族に重度化や終末期のあり方について、事業所として支援出来る事と出来ない事を説明し確認している。看取りの希望に対しては、指針に基づき主治医等と連携し、体制作りにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、職員全員が把握できるようにすると共に、定期的に普通救命講習の受講も促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の自主避難訓練と年2回の消防署員を招いての総合避難訓練を行っている。スプリンクラーや自家発電機を設置している。	消防署指導の下、年2回の総合避難訓練と毎月の自主避難訓練を実施し、避難手順や避難場所、緊急時の役割の確認や連絡網の整備など、災害に対する備えに努めている。自家発電機を設置し、備蓄も確保している。	緊急時に協力が得られるよう地域の保養所等と密に付き合いを行い、併せて、夜間想定訓練や防寒対策についての取り組みにも期待したい。

認知症高齢者グループホームりんどう荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	説得するのではなく納得をいただく言葉掛けをするようにしている。入浴は一人ずつ、部屋に鍵をかけた方には巡視時や緊急時には開けさせていただくことを説明した上でかけていただいている。	職員は人生の先輩である利用者を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。丁寧かつ納得してもらえる話しかけを心がけ、名前は「さん」付けで呼んでいる。広報紙等への写真掲載については契約時に了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉だけでなく、裏に隠されている気持ちを会話の中からや、ふとした表情や沈黙などを見逃さないような職員の育成に努めている。自己決定が難しい方には選択性にするなど工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の自己決定を促している。こまめな声かけを行い本人の意向を確かめながら過干渉、ほったらかしにならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な衣類の着用を心がけています。また、着ている服の色や形などを会話の中に取り入れ、自信が持てるような声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際、他利用者様の食べ終わった食器など下膳して下さる方、テーブルを拭いて下さる方など、職員、利用者様が一緒に共同作業を行い家庭的雰囲気での食事の時間を過ごしている。	宅配業者の食材により、利用者の嗜好や状況に配慮し職員が調理している。うなぎやちらし等の特別メニュー、行事や季節に応じた食事、出前や外食は利用者の楽しみとなっている。下膳やテーブル拭きなどを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は記録をつけています。脱水予防として一日1500CCを目安にしていますが、変化があったときには注意深く様子を観察するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じて義歯洗浄、歯磨き、うがいの声掛け、誘導、介助をしている。口腔ケアに使用する歯ブラシ、コップも週に1回消毒しています。口腔内の状態も確認している。		

認知症高齢者グループホームりんどう荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便の記録をつけ、排泄パターンを把握し適宜に声掛け、誘導を行っている。オムツをしている人でも尿便の訴えあればトイレで排泄する援助をしている。	仕草や様子から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけを心がけ、状況に配慮した誘導支援に努めている。おむつ使用者でもトイレでの排泄ができるよう支援している。介護ロボットとして移動水洗トイレも設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をつけ個々のパターンを把握している。記録には本人が何日排便がなかったかが一目でわかるようにしてある。適度に体を動かす、水分を多く摂るなど日常生活に気を付けている。自然排便が困難な方には医師に相談し処方された下剤を適宜使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴予定日は受診や外出予定を考慮して本人と相談して決めている。それによって利用者はその日を楽しみにし、それぞれ計画的に過ごされるので入浴時間はゆっくり自分の時間として楽しまれている。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の予定や希望に配慮しながら支援している。浴室は十分な保温に努め、入浴剤や湯の花を使用したり、職員と歌や昔話を楽しむなど、くつろいだ気分で入浴できるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室は夜眠るだけのためのものでなく昼間でも自身のプライベートスペースとして休息やくつろぎの場所として活用されている。室温や寝具の調整、照明など個々に合わせて配慮し、安全かつ安心してお休み頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに薬の説明書をファイルしておくのでいつでも確認することが出来る。症状の変化については早期発見と対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙、編み物、料理、絵手紙などそれぞれの得意な事、興味がありそうな事に取り組んでいただいている。利用者様が講師になる事も多々あります。掃除が好きな方は、共同部分の掃除をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様面会時に急遽外食をされる際にも対応できるようにしている。家族様へ利用者様の希望を伝え外出や外食など行えるように支援している。	回覧板を届けながら散歩をしたり、近隣の保養所の人達とコミュニケーションを図ったりしている。季節により花見や観光地巡りに出かけ、美味しい物を食べたり足湯などを楽しんでいる。町内のイベント館に職員の演奏を聴きに行くこともある。家族の協力を得て、個別の外出も支援している。	

認知症高齢者グループホームりんどう荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の希望が無い為、現金は全てご家族が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りは自由に行っている。電話機の使い方、封書の投函などは職員が支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓を行い、快適に過ごしていただくために室温管理を行って加湿、除湿を行っている。季節の設えをするようにしている。また、リビング外に椅子、ソファを置き、好きなように使っていただき、利用者同士の距離感を適度に保つ工夫をしている。	室内は整理整頓に努め、適度な室温や採光等にも配慮している。玄関フローにはソファや椅子を置き、自由にくつろげるよう工夫している。壁面に職員の写真や絵画を掲示したり、リビングには利用者写真や作品を飾るなど、生活感や季節感を感じさせながら居心地よく過ごせる空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングからは離れた場所にソファなどを設置し、自由に過ごせるようにしている。また、気の合う利用者様同士では、各居室へ行き来し自由に会話等を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にその方のお部屋であるので自由に使ってよいこととお話している。なるべく自宅に近い、落ち着いた空間にして欲しい事を説明しています。馴染みの家具や好みの絵や写真なども多く持ち込んでいただいている。	カーテンやベッド・ベッドサイドテーブル・加湿空気清浄機は備え付けであり、一部の居室には移動水洗トイレを設置している。馴染みのタンスや小物などを自由に持ち込んでもらい、壁には写真や作品を飾り、利用者個々の思いに添った雰囲気です居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は階段がありますが、ユニット間の交流の際にリハビリを兼ねて上り降りしていただきます。浴室は個浴で介助のもと安全に入浴していただいている。		